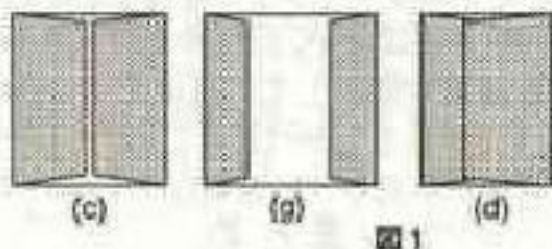


Origami Tanteidan Newsletter 折紙探偵団新聞



❖ 片面性をどう定義するか？これが今回のテーマである。現時点で片面性は定義されていないのでこの言葉は使えない。とりあえず裏が見えないと言うことにする。

四隅を中央に集めた(a)座布団折りや(a)を1枚の紙として折ったものは裏が見えない。(b)対角線半分折り。(c)観音折り。(d)左右の扉が重なる観音折り。すべて裏が見えない。逆に(e)何も折らない。(f)カドを少し折る。(g)すき間のある観音折りは裏が見える。



❖ (c)(g)(d)を比べながら裏が見えないことの本質を考えよう。(g)で裏が見えるのは中央にアキがある。あるいは紙の縁がくっついていないからで、(g)で紙の縁を中央にたぐり寄せてくっつけると裏が見えない(c)になる。そこで折ったときの紙の縁の形状に着目する。

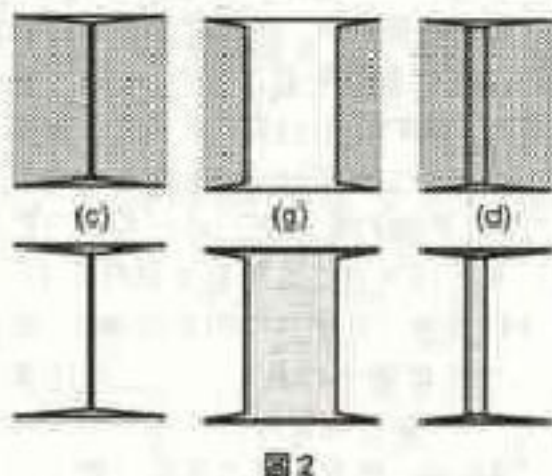


図2は(c)(g)(d)の紙の縁である。どんな折りたたみでも、紙を破らない限り、紙の縁は閉じた折れ線になる。折れ線は普通図3(1)のようなものをさすが、両端がくっついていても折れ線であることに変わりない。数学では両端がくっついた状態を閉じたと表現する。

(c)と(g)の違いは紙の縁(閉折れ線)内部のスペースの有無に反映される。(d)

の折れ線は内部にスペースがあるので、紙の裏が見えなくても、(g)に近いと考えた方がよい。そこで、

定義(片面性) 紙を有限本の折り線(線分)で折ったものが、境界条件：紙の縁が作る閉折れ線内部にスペースが無い。

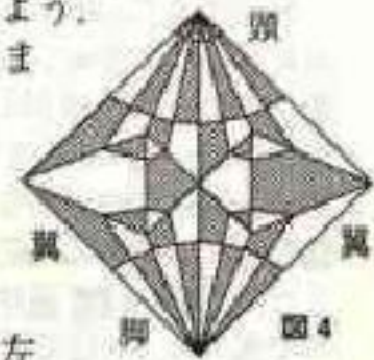
を満たすとき片面性を有すると言う。

❖ まわりくどい！裏が見えない＝片面性を有するでよいではないか、と言われそうである。確かにそう定義しても構わない。ただそうすると、片面性を有する折り紙についての定理が何一つ得られない。片面

方形でなく不定形の多角形でよい。さらに円形用紙でも、片面性の定義を少し修正すれば定理は成立する。

証明の代わりに具体例で定理を確認しよう。

図4は胴を膨らます前、平坦に折りたたまれた折り鶴の展開図を白黒に塗分けたものである。たまたま左



右対称なので(2)が簡単に確認できる。逆に裏が見えないもかわらず上記定義により片面性が無いとされた(d)では、(2)は成立しない。

裏が見えない→紙の縁が作る閉じた折れ線内部にスペースが無い⇔有片面性⇔白の面積=黒の面積

❖ これが今回の要点であるが、このような考え方を押し進めると、球面の折り紙のようなものにたどり着く。これは東(あずま)秀明さんにより詳しく研究されていて球面的折り紙と呼ばれている。直接関係ないが平織りはドーナツ的折り紙である。

こう書くと東さんが片面性をさかんに研究していたような印象を与えるが、球面的折り紙の起源は別の所にある。東流折り紙の幾何学は格調が高く素人向きでないので触れないうちでいたが、次回ちょっと冒険する。題して「東流折り紙の幾何学から」

❖ そうそう山折りと谷折りの定義を忘れるところであった。今のところこれぞというものがなく、強いて定義すると、展開図の縁についた符号(±)である。

問題提起◆与えられた四辺形に対して片面性を有する1回折りをすべて求めよ。◆いかなる1回折りも片面性を有しないような四辺形はどのようなものが、◆三角形や内接円を持つ四辺形には必ず片面性を有する折りたたみがあることを証明せよ。



性という概念が数学的に無価値なものになってしまう。

これに対して先の定義だと次の定理が成り立つ。

定理 平坦で片面性を有する折り紙の展開図において、

- (1) 折り線で区切られた面は、隣接面が異なるように白黒2色で塗分けられる。
- (2) 白い面の面積の和=黒い面の面積の和。

注意：(1)は片面性ではなく平たくたたまれた折り紙が持つ性質である。用紙の形は正





折紙時評

まえがわ じゅん Jun Maekawa

第4回
コンビニにはどんな折り紙が
置いてあるか？

前川 淳

■あれから、2年半、ついに「折り紙の科学国際会議」の論文集が完成した。

飛田給ってどこやねん

引っ越した。最寄りの駅は京王線の飛田給(とびたきゅう)。「きゅう」という響きにはのはの感がただようが、土地柄も負けていない。新宿から20数分の距離だが、駅前にのどかな田園風景(畑)を眺むことができる。京王線の特急が最もスピードをあげて通りすぎるのもこの辺りであろう。とは言っても、見渡す限り畑が広がっている道理はなく、半径1km以内にコンビニエンスストアが8軒もある。そのコンビニエンスストアにどんな折り紙(折り紙用紙)があるのかを調べてみた。

謎の鶴屋敷

調査の対象となったのは、セブンイレブン4軒、ファミリーマート2軒、ローソン1軒、ミニストップ1軒という顔ぶれである。同じ系列の店は品揃えも同じだともうかもしれないが、POS(Points of Sales)システムによる販売実績管理のなせるわざか、これが微妙に違う。セブンイレブンの4店を見てみよう。

●西調布店：

「千羽鶴用おりがみ」(7.5cm)

「教育おりがみ」(15cm) 各100円

●調布インター南店：

「教育おりがみ」(15cm)

同 (17.8cm) 各100円

●調布飛田給店：

調布インター南店と同じ

●調布飛田給一丁目店：

「教育おりがみ」(15cm)

飛田給一丁目店は店が小さいので1種しかない。これはいい。わからないのは、西調布店の「千羽鶴用おりがみ」だ。近くに千羽鶴のマニアが住んでいるのかもしれない……。探索を続けると、なんとびっくり、旧甲州街道を挟んだ向かいに、あやしい邸宅を発見した。何百坪もあるかとの土地、どっしりとした門構え、奥に見える家も極に麗(あかがね)を使うなど堂々としたものだ。そして庭も……。きれいに刈り込まれた植木の

ただ中に、丹頂鶴の彩色立体模型があるではないか。千円札の裏にあるようなポーズをしている。はっきり言って異様だ。この家の守り神は鶴らしい。うーむ。きっとあの奥で、深窓の令嬢とか大奥様とか、千羽鶴を折っているのに違いない。時々、執事がセブンイレブンに千羽鶴用おりがみを買いにくるのだ。間違いない。そうに決まっている。(嘘のようだが、事実に基づいた話である)

なお、「教育おりがみ」の発売元はトーヨー、紙は北越クジャカラー、付属の折り図は山口真先生である。ところで、「北越クジャカラー」ってなんだ？

謎の牛

次はローソン飛田給一丁目店。これも「教育おりがみ」(15cm)だが、枚数がセブンイレブンの37枚に対して、68枚と多い。値段は150円で、1枚あたりの単価はこちらのほうが安い。折り図はやはり山口先生だが、セブンイレブンのものと内容が異なる。折り図で最も注目すべきは、「セブンイレブン17.8cm」である。ジェットコースター、観覧車、男の子と女の子の顔、シャツ、遊園地のコーヒークップ。ここまでは納得だ。もうひとつが、牛。牛である。いきなり、富士急ハイランドからマザー牧場に行ってしまった。ちなみに、ローソンのものは、金魚、汽車、鉛筆、すみれ、ときどき、牛である。牛……

次はファミリーマートの調布飛田給店と武蔵野台北口店。「教育おりがみ15cm」が、55枚で180円！ 高い！ ふだん折り紙の値段を気にとめたことはなかったが、これは不当に高いぞ。いったいどこが違うのか。図はまたしても山口真先生で、くびりわんわん、金魚、他。牛は載っていない。牛よりくびりわんわんのほうが偉いのか。待てよ。図が3色刷だ。これか、これなのか、と調査を進めるうちに、調査員(いつの間にか調査員になっている)は、決定的な事実を発見するに至った。カバーにプリントされた「Family Mart」のロゴ。うーむ。

発売元はトーヨーだが、自社ブランドだ。だが、なんでそれで高くなるんだ。ニッポンノリウツウノシクミ、ワタシワカリマセーン。

食べれるけど折れない

最後は、ミニストップ府中品川通り店。これはいけない。なんと折り紙が置いてない。棚にスペースもないので、たまたま切らしていたというふうでもない。ピンゴやトランプ、花札などがあるのに折り紙はない。伝統ある折り紙を愛する愛国の徒として、落涙を禁じ得ない。「食べれるしゃべれる」などと「ら抜き言葉」を言っている場合じゃないぞ。

まとめ

ミニストップに折り紙が置いていないという衝撃の事実が明らかになったが、他は、トーヨーと山口真先生の完全制覇となった。サンクスやスリーエフはどうなっているのか興味はつきない。全国的にも「トーヨー・山口」のタッグだとしたら、「山口真」の名前は、この国の子どもたちの脳裏に刷り込まれていることになるだろう。先日、「山口真容疑者(20人、会社員)が、携帯電話をかけたがらの運転で事故をおこした」という記事を見た。あの「山口真」を見て、全国で何人かの子どもが幼い心を痛めたことだろう。この国の未来のためにも山口真先生にも品行方正なる行動を期待しよう。

今回調査したすべての折り紙に、保護者への注意書きがあったことも印象に残った。「製造物責任」なるものだろうが、違和感(野球の投手が肩に感じるもの)もある。「折り上がった作品で危険な遊びを絶対にしないでください」と言われてもねえ。くびりわんわんを使った危険な遊びとはいったいなんだ。まねをして、首を180度回してはいけませんよということか。謎は多い。思えば、「教育おりがみ」というネーミングも謎である。

というところで、スペースも尽きた。謎の数々は次回解決する(かもしれない)

第2部第1回 これは折り紙なのか?

羽鳥 公士郎

はとり こうしろう
Hatori Koshiro

おことわり: 今期より、このページは、岡村昌夫の「おりがみ庵・ひとりごと」と羽鳥公士郎の「折り紙の哲学」を交互に掲載致します。ご了承ください。

折り紙の哲学



これまで6回にわたって、「折り紙とはなんだろうか」という問題、特に「折り紙」と「紙を折ること」との違いという問題について考えてきました。第2部では、ポール・ジャクソンの「一線折り」の作品群を中心に、この問題を考えたいと思います。その理由は、これらの作品が折り紙と紙を折ることの境界部分にあると考えるからではなく、むしろ、これらの作品こそが折り紙の中心にあると考えるからです。

私の拙いスケッチで恐縮ですが、ジャクソンの作品のいくつかを紹介しましょう。図1と図2が「一線折り」、図3と図4はそうではありません。こうして4つの作品を並べてみると、後者2つは明らかに「折り紙」に見えるのに対し、前者2つは一見すると折り紙には見えません。今回は、一線折りが折り紙に見えないということを実感として認めた上で、なぜそうなのかを考え、さらに、それにもかかわらず一線折りは折り紙であると主張したいと思います。

-なぜ折り紙に見えないか-

一線折りはなぜ折り紙に見えないのでしょうか。折り線の数が少ないことが原因でしょうか。しかし、図3の「象」も折り数は少ないですが(たったの3回!)、ちゃんと折り紙に見えます。また、一線折りは決して折り線が一本ということではありません。一線折りとは、折る動作が一回ということですが、実際には、一連の動作の中で何本かの折り線をつけることになります。「一連の動作の中で何本かの折り線をつける」ということは、すべての折り紙作品に共通していることではないでしょうか。

図3や図4の作品は平面を主体とし

て構成されているのに対し、一線折りは曲面を主体として構成されています。しかし、曲面を主体として構成された折り紙作品は、川崎敏和の「バラ」をはじめ、数多く存在します。このことは主な理由ではないでしょう。

私の考えでは、一線折りが折り紙に見えない最大の理由は、一線折りの作品には題名がついていないということです。もっと正確に言えば、一線折りには「見立て」が存

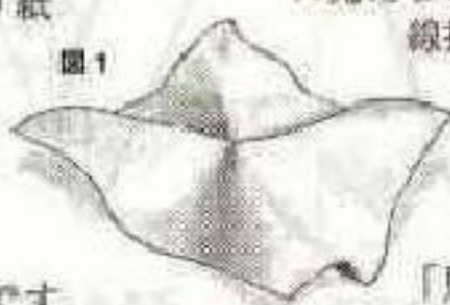


図1

在していないのです。多くの折り紙作品には名前がついており、ほとんどの場合、その名前は、その作品が何に見立てられるのかを示しています。ある作品を「象」に見立てたとき、その作品に「象」という題名をつけるのはごく自然なことです。

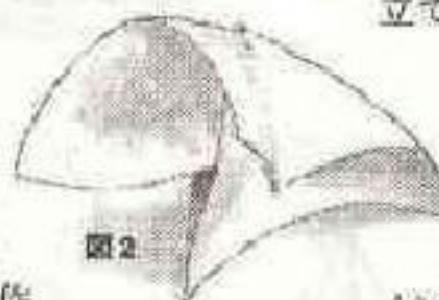
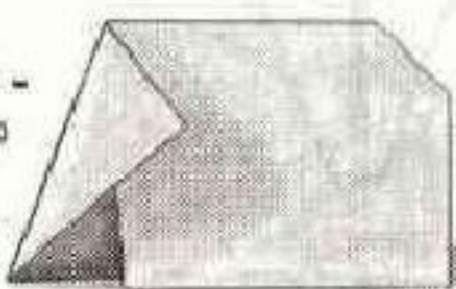
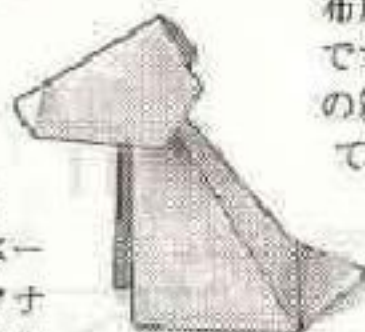


図2

ここで注意しておかなければならないことは、題名をつける



権利があるのは作者だけとは限らないということです。たとえば音楽の例でいえば、ベートーベンのピアノソナタに「月光」という題名をつけたのはベートーベンではありません。したがって、一線折りの作品にジャクソンが題名をつけていないからといって、題名をつけることができないということにはなりません。



でも、どんな題名をつければよいのでしょうか。せいぜい「収束」とか「焦燥」といった抽象的な題名しかつけられないでしょう。一線折りは、一切の見立てを拒否しているかのようです。

-見立てと折り紙-

見立てが折り紙にとって重要な要素であることは疑う余地がありません。長方形の紙を3回折ったものは、「象」に見立てられることで、はじめて折り紙として成立します。一線折りに見立てが存在しないとしても、それでも一線折りは折り紙であるといえるでしょうか。

音楽には、標題音楽と絶対音楽があります。標題音楽には、例えば「英雄の生涯」という題名がついていて、その曲が「英雄の生涯」を表象していることを示しています。それに対し、絶対音楽では、題名は例えば「交響曲第2番」となっていて、その曲は何かを表象しているわけではありません。

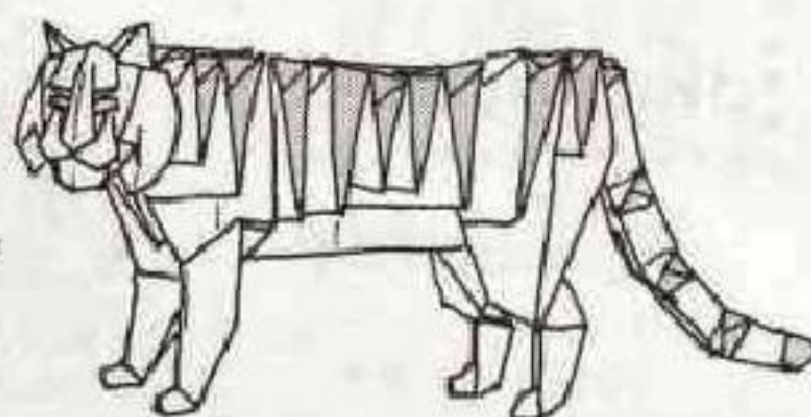
一線折りが折り紙だとすれば、それは、いうなれば「絶対折り紙」ということになるでしょう。ところが、折り紙界を見渡してみれば、すでに絶対折り紙が存在していることがわかります。例えば内山光弘の花紋折り、布施知子の箱や螺旋の作品群がそうです。折り紙の箱は、端的に「折り紙の箱」なのであって、箱に見立てられているわけではありません。

このように、すでに見立てのない折り紙が存在しているのですから、一線折りに見立てがないとしても、その理由だけで折り紙ではないということとはできません。また、逆のいいかたをすれば、折り紙にとって見立ては必要条件ではないということにもなります。

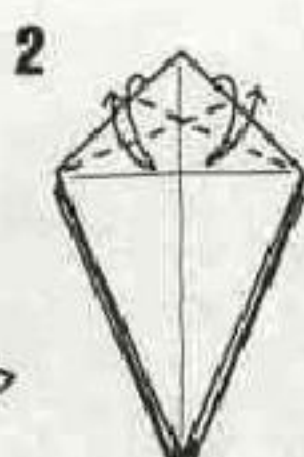
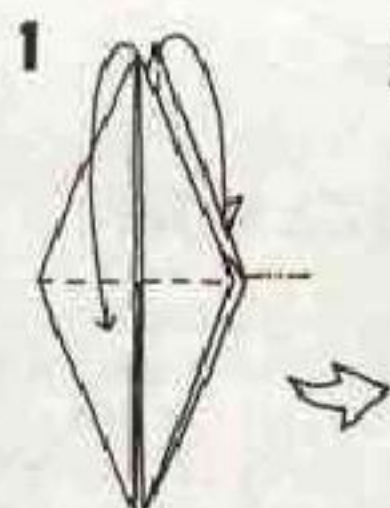
46号に続く

トラ

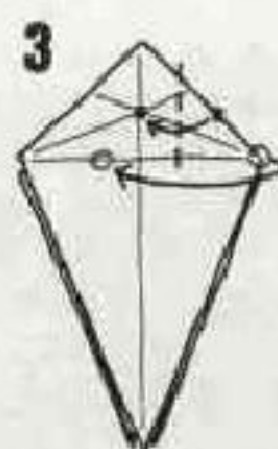
作/図 小松英夫
Hideo Komatsu



色面（縞模様部分）を内側にして
折った鶴の基本形から始める



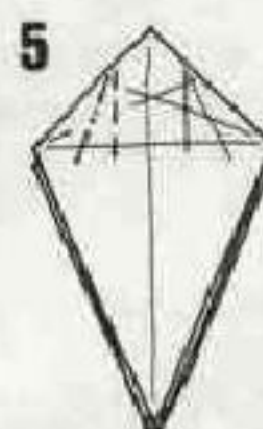
折り筋をつける



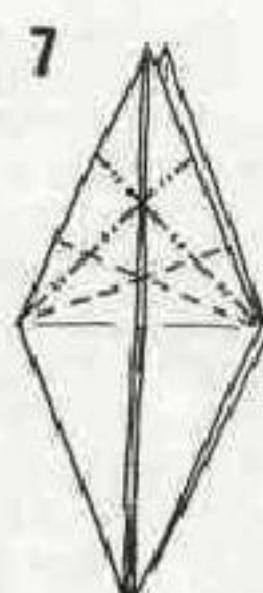
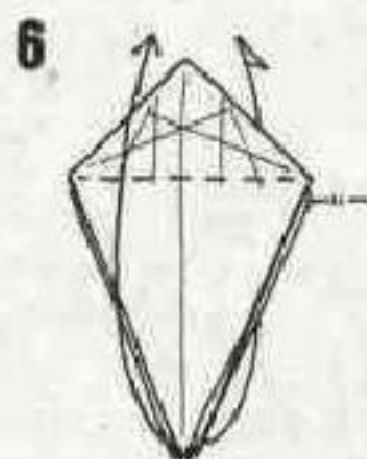
印と印を合わせて折る



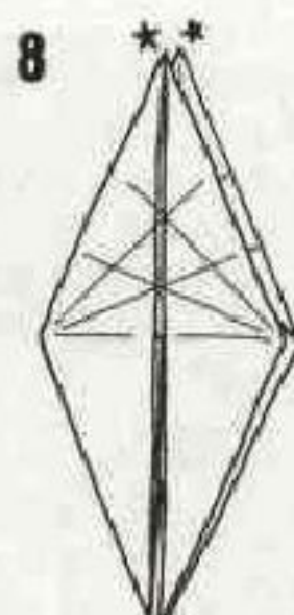
辺を合わせて
折り筋をつける



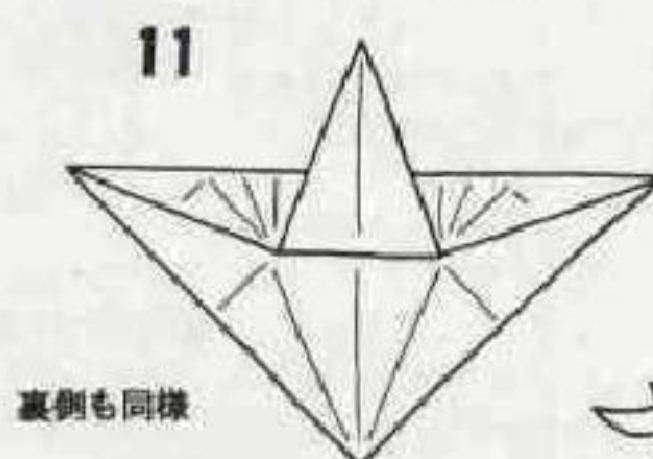
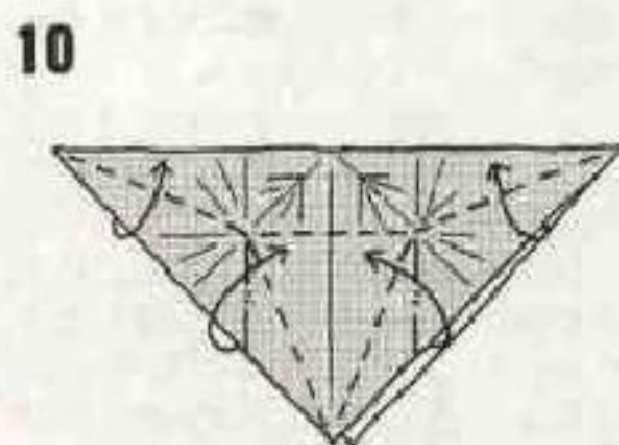
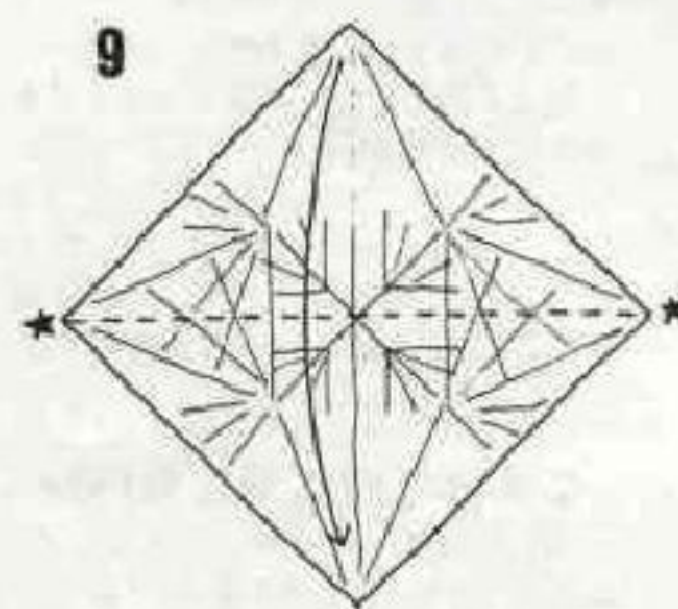
残り3か所も同様に
折り筋をつける



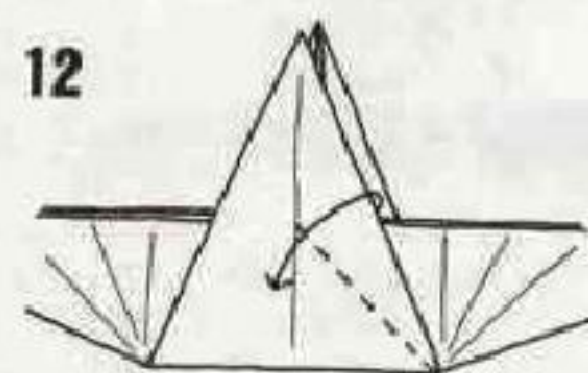
折り筋をつける 裏側も同様



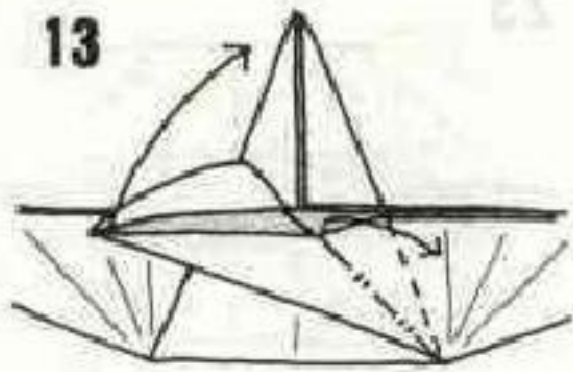
広げる



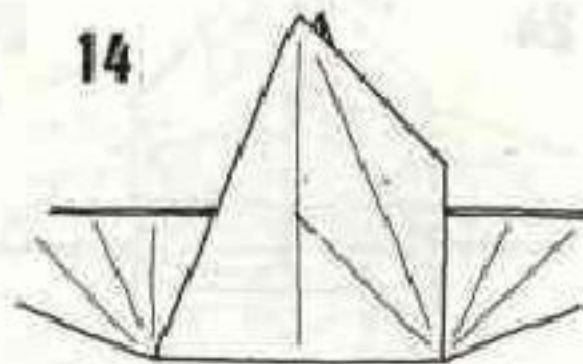
裏側も同様



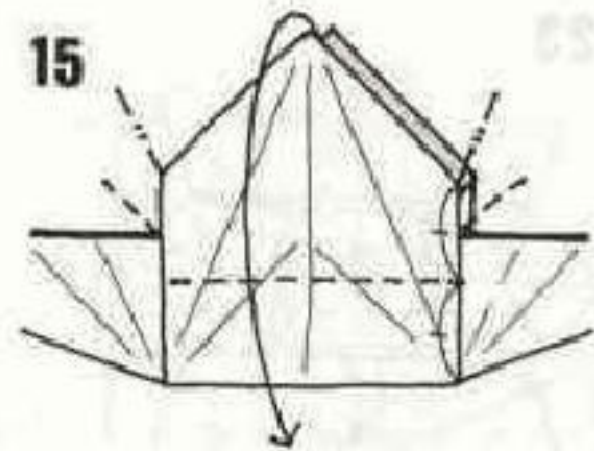
いっばいに折り下げる



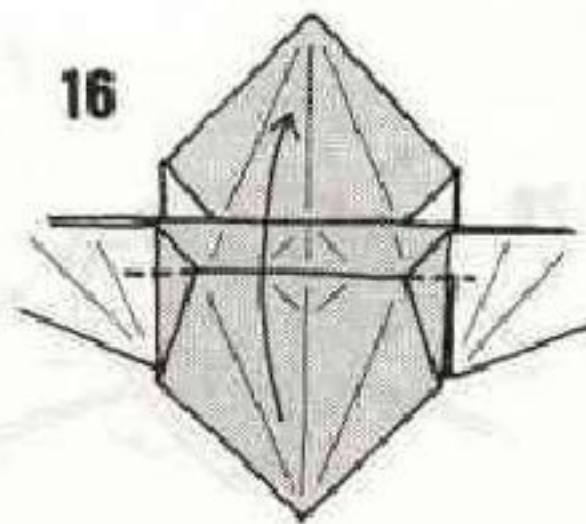
13 内側を広げながらカドを戻す



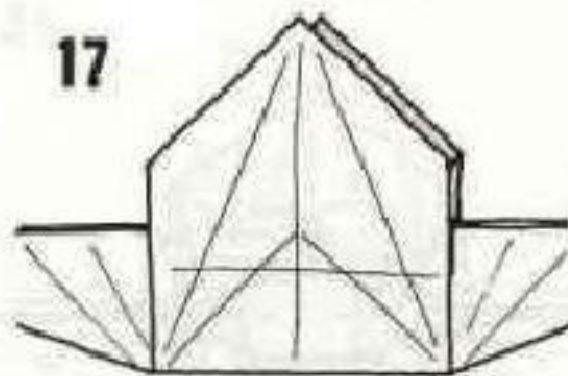
14 残り3か所も同様



15 左右をつぶしながら折り下げる

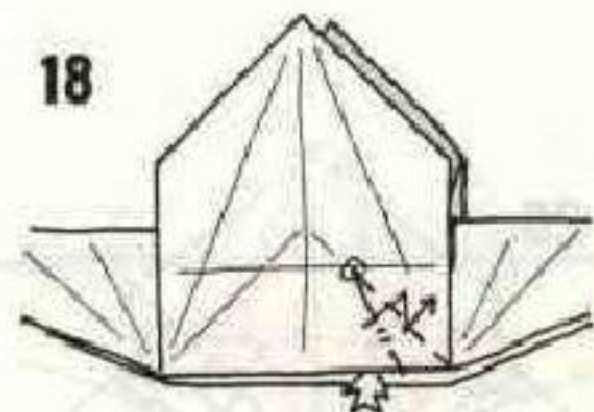


16



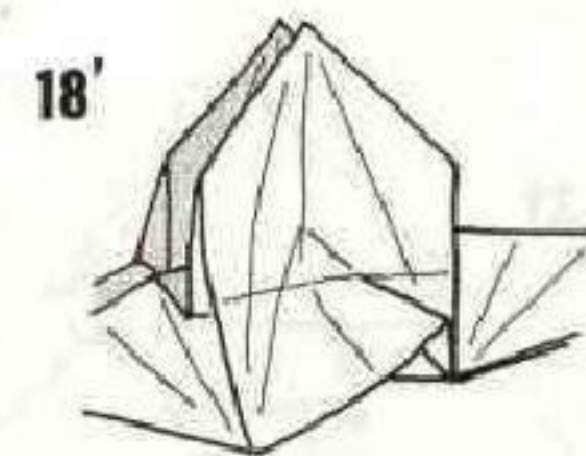
17

裏側も同様



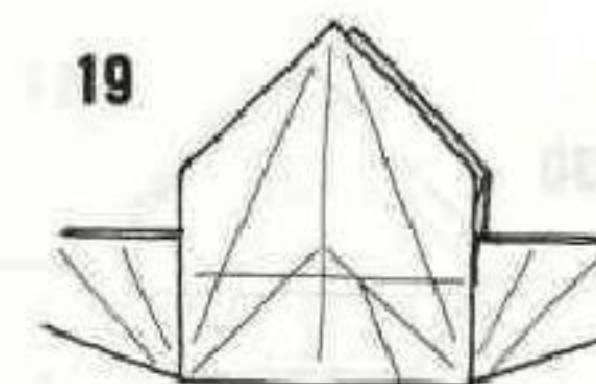
18

折り筋をつける 山折りのところは裏の折り筋を利用



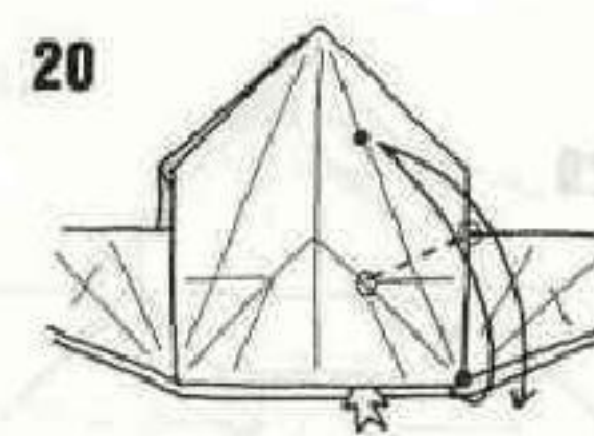
18'

このように折り筋をつける



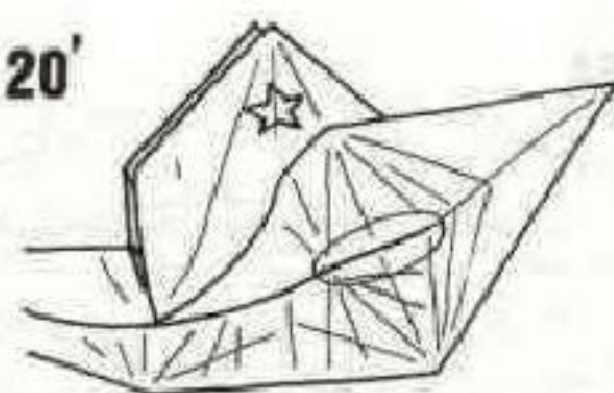
19

残り3か所も同様



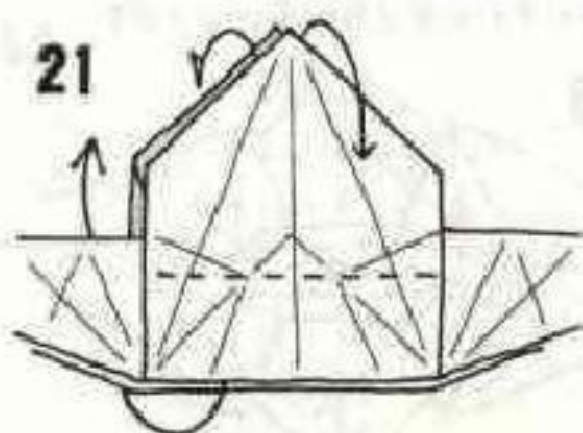
20

折り筋をつける



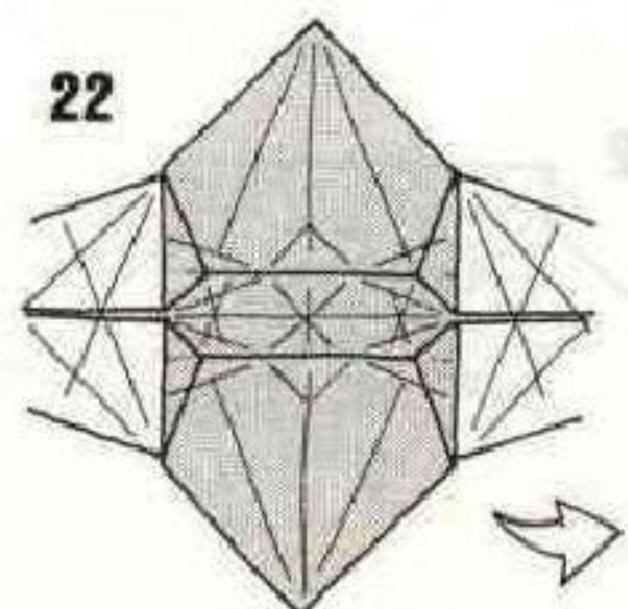
20'

このように折り筋をつける
☆がずれないように！
残り3か所も同様



21

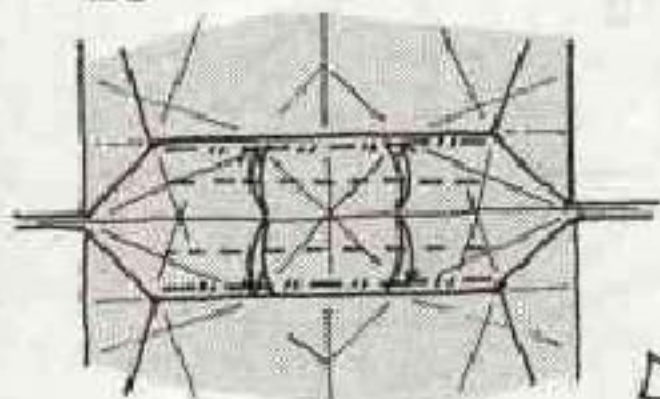
次図のように開く



22

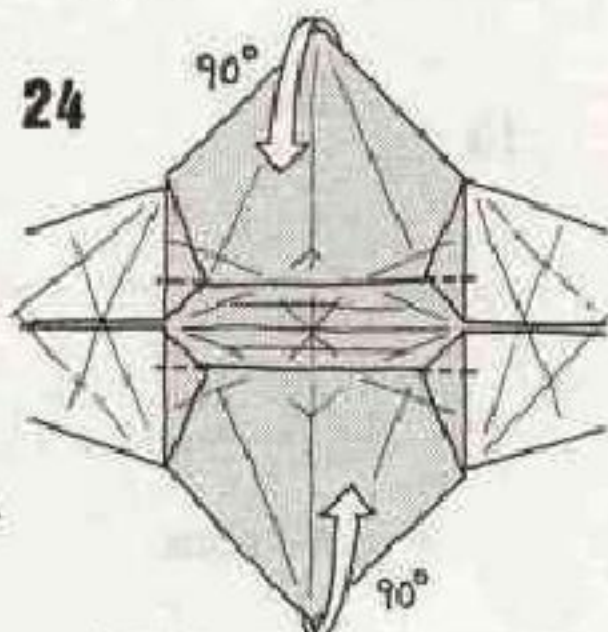
拡大

23



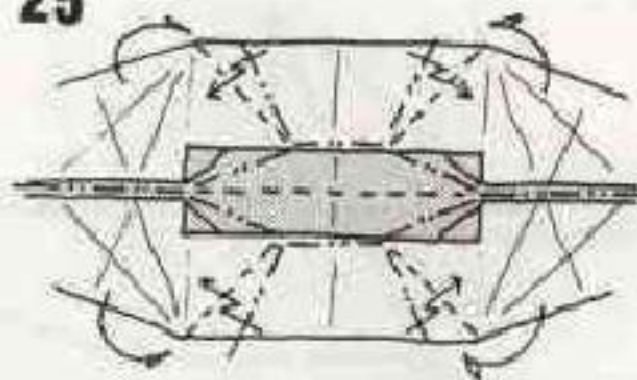
折り筋をつける

24



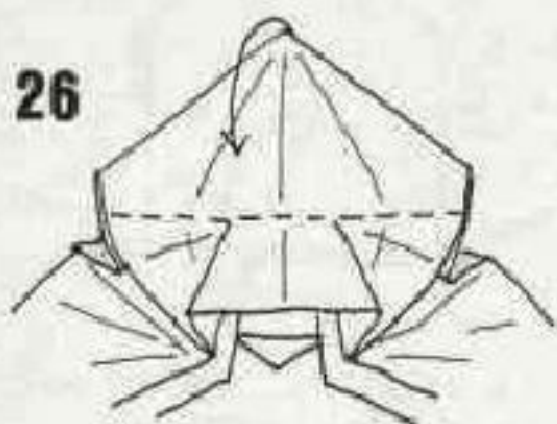
(図を分かりやすくするため)
カドを直角に立てる

25



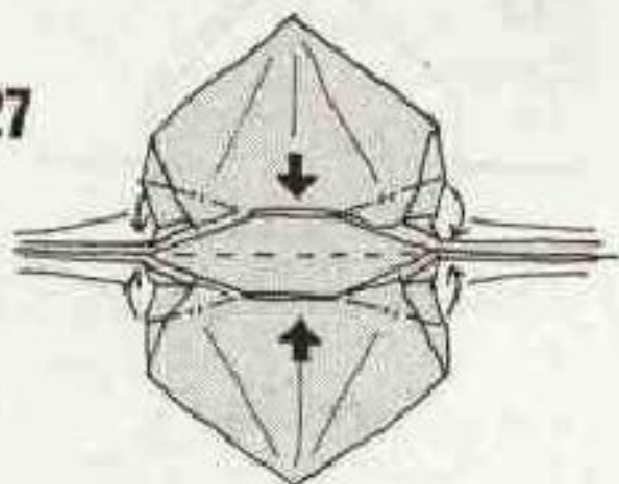
半分に折りながら折り筋で
まとめるようにする

26



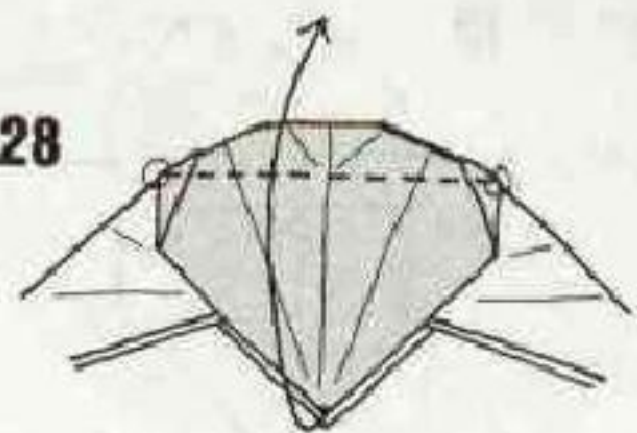
(横から見たところ)
折り目で畳む

27

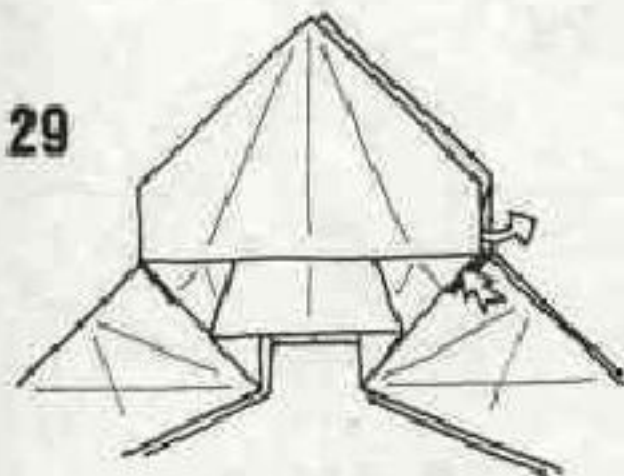


(上から見たところ)
平らに畳む

28

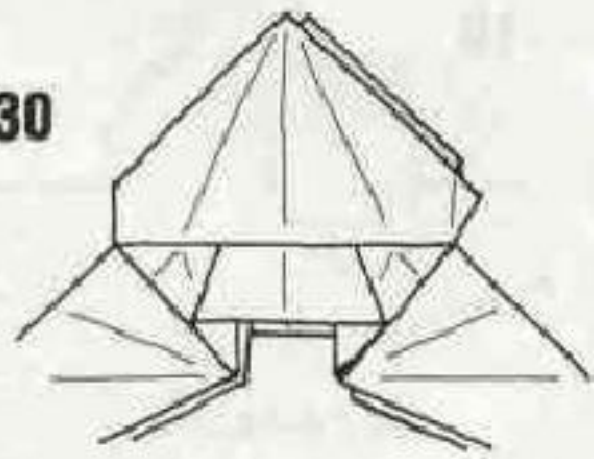


29



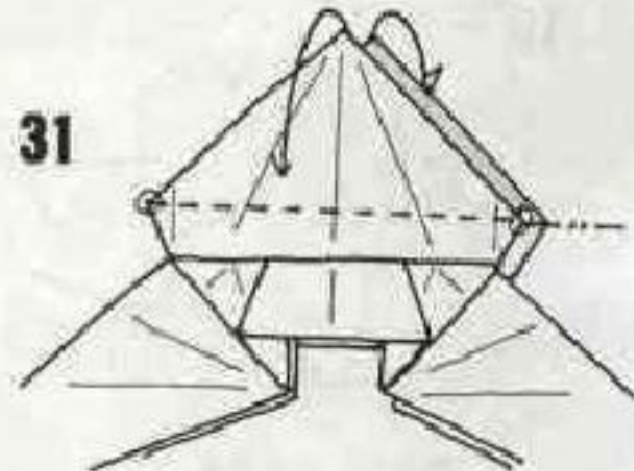
畳まれている紙を
開いてつぶす

30

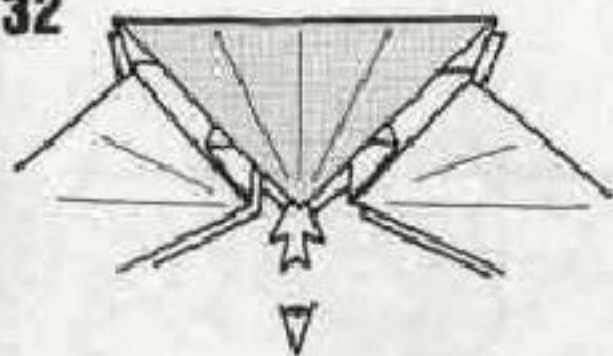


残り3か所も同様

31

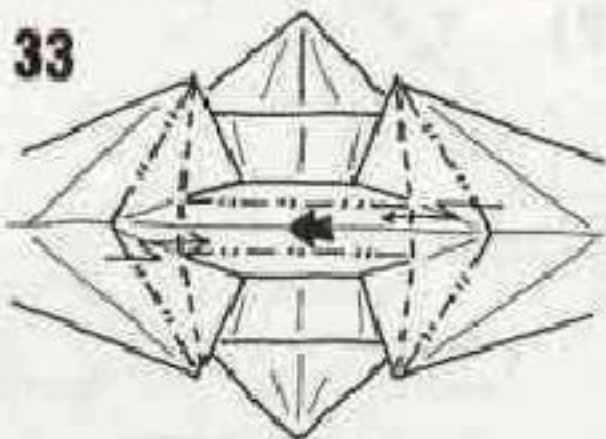


32

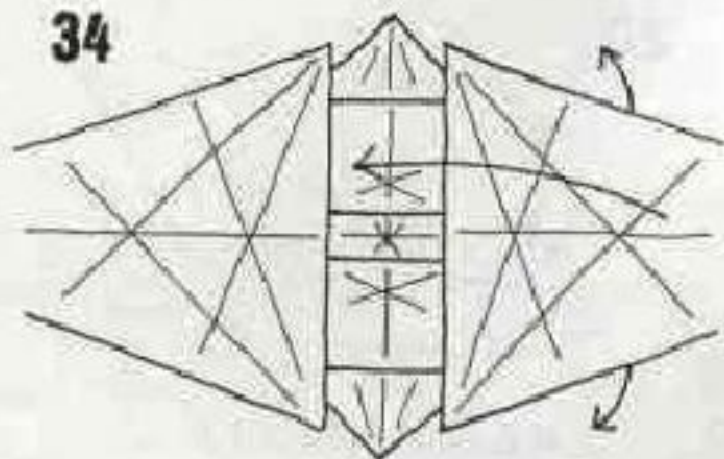


ついている折り目で平らにつぶす

33

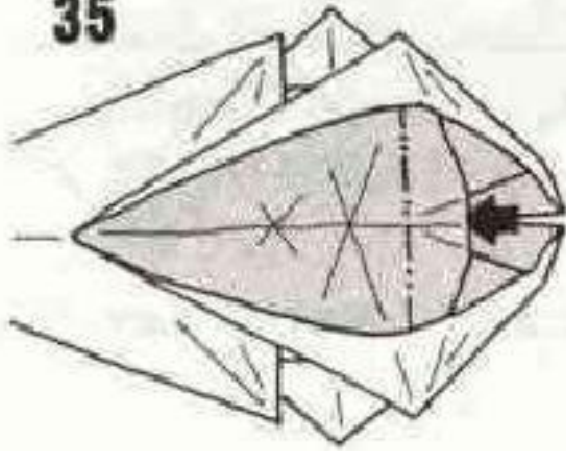


34



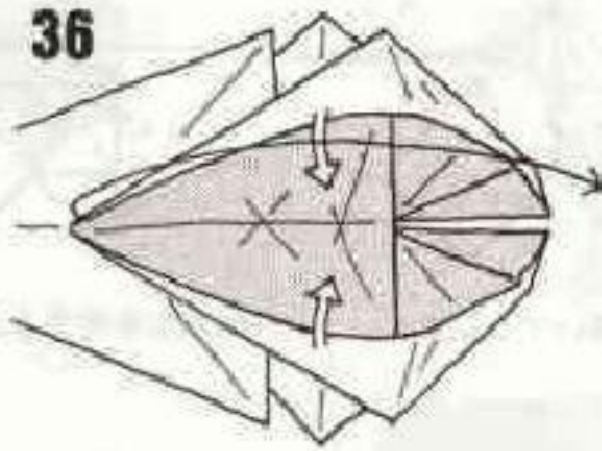
カドを持ち上げ
内側を広げる

35



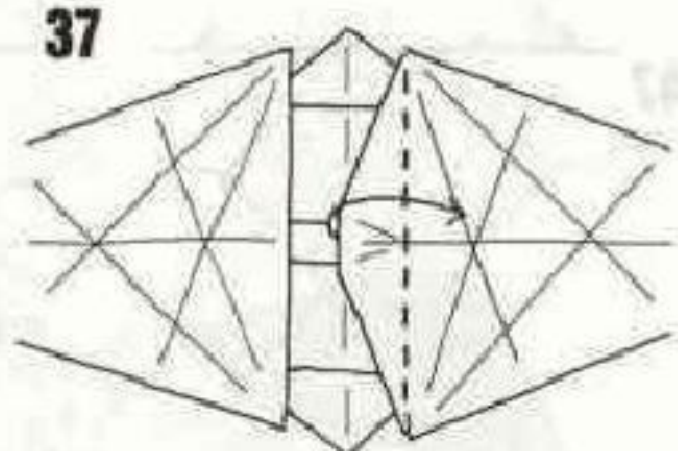
いっばいに押し込む

36

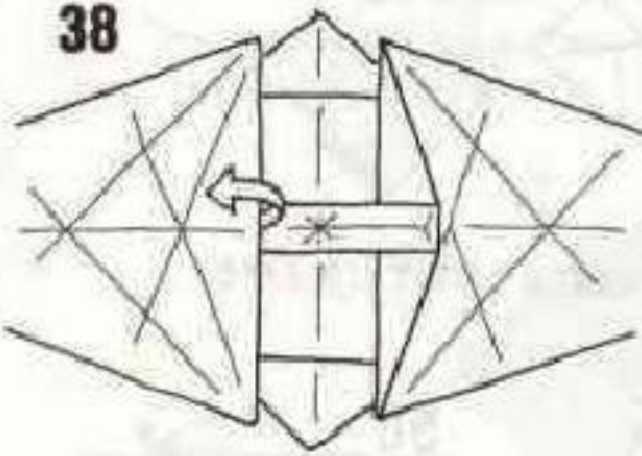


持ち上げたカドを戻す

37

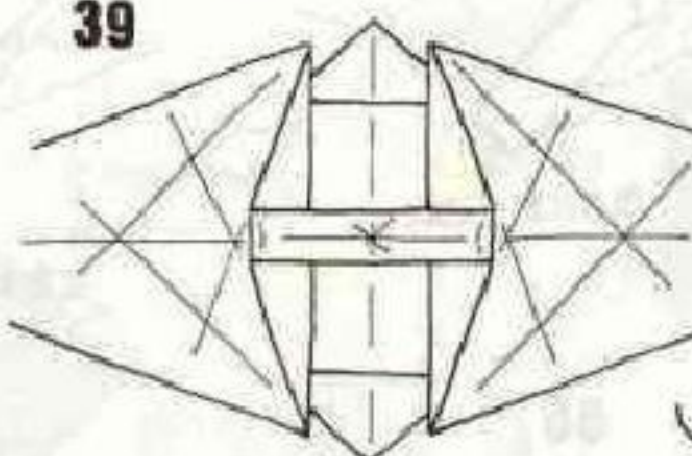


38

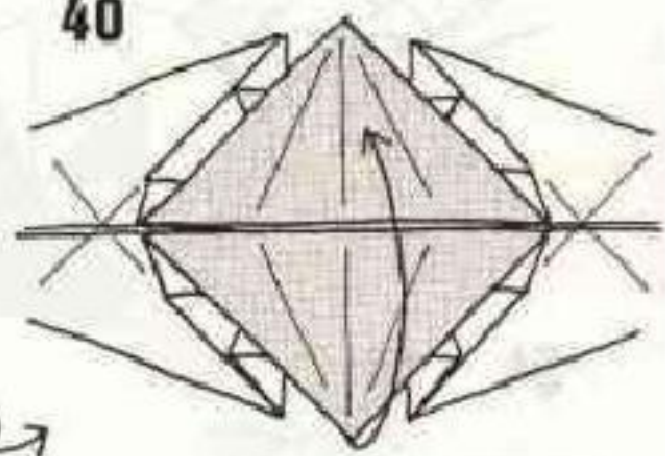


反対側も同様

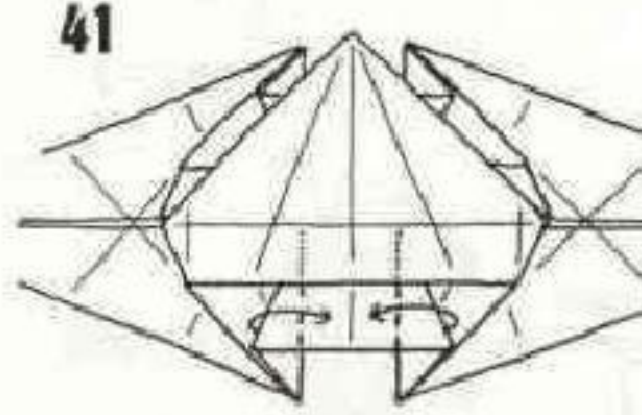
39



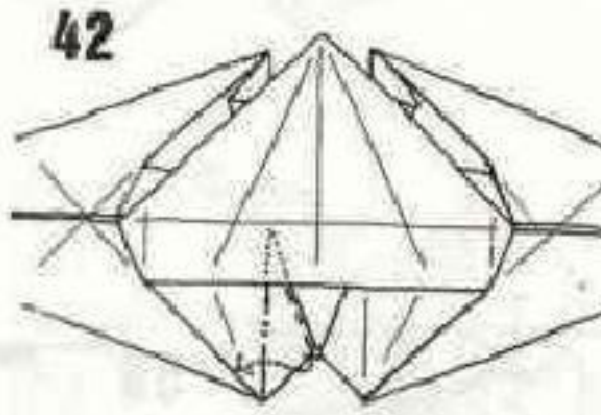
40



41

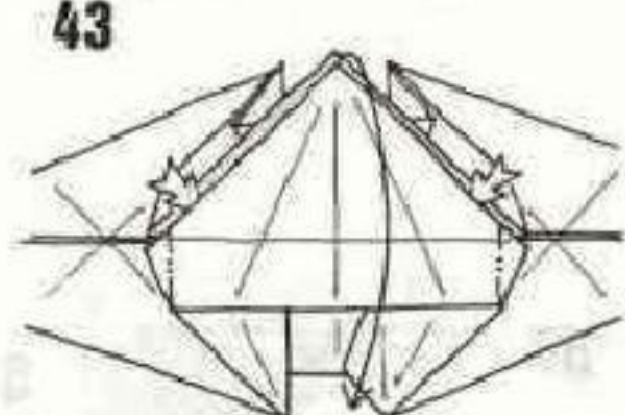


42



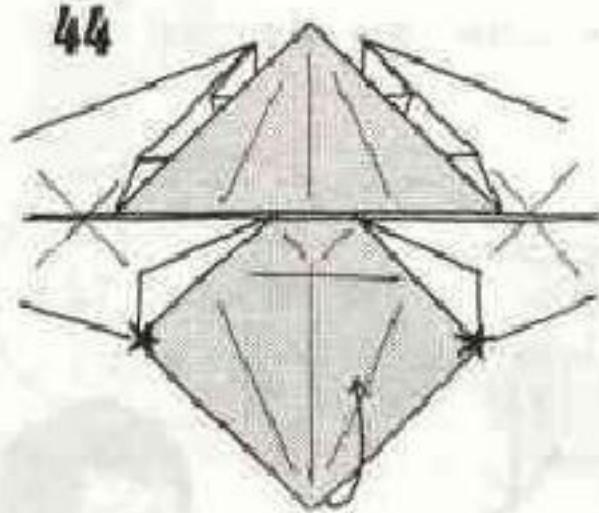
中割り折り
(この時点で右側が頭になる)

43



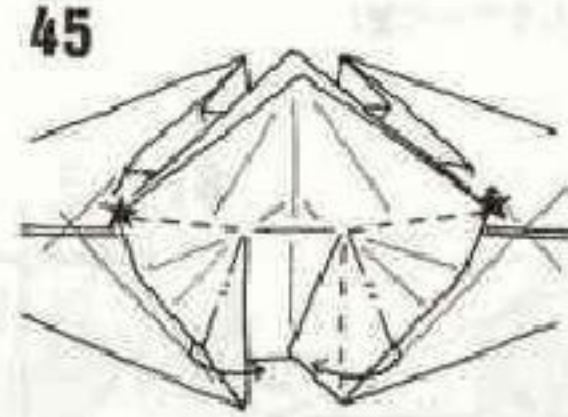
左右をつぶしながら折り下げる

44



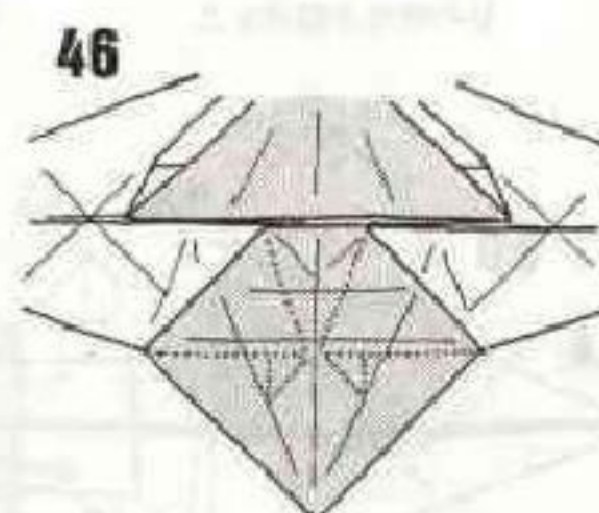
持ち上げる

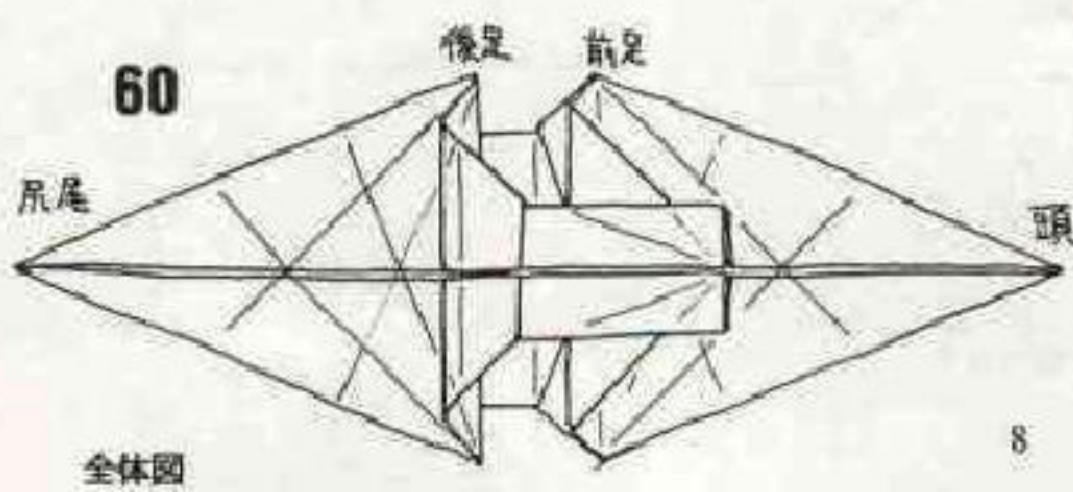
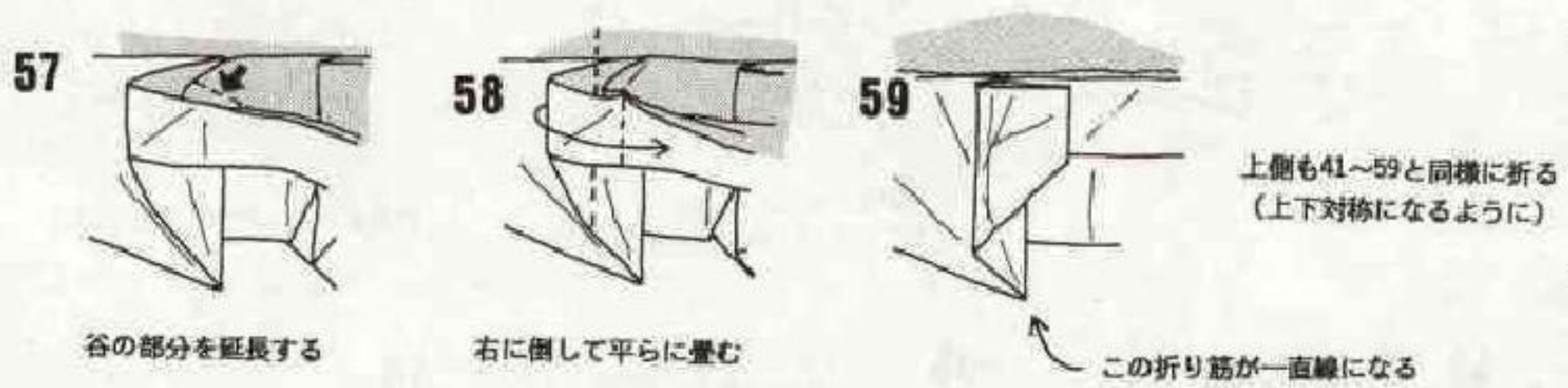
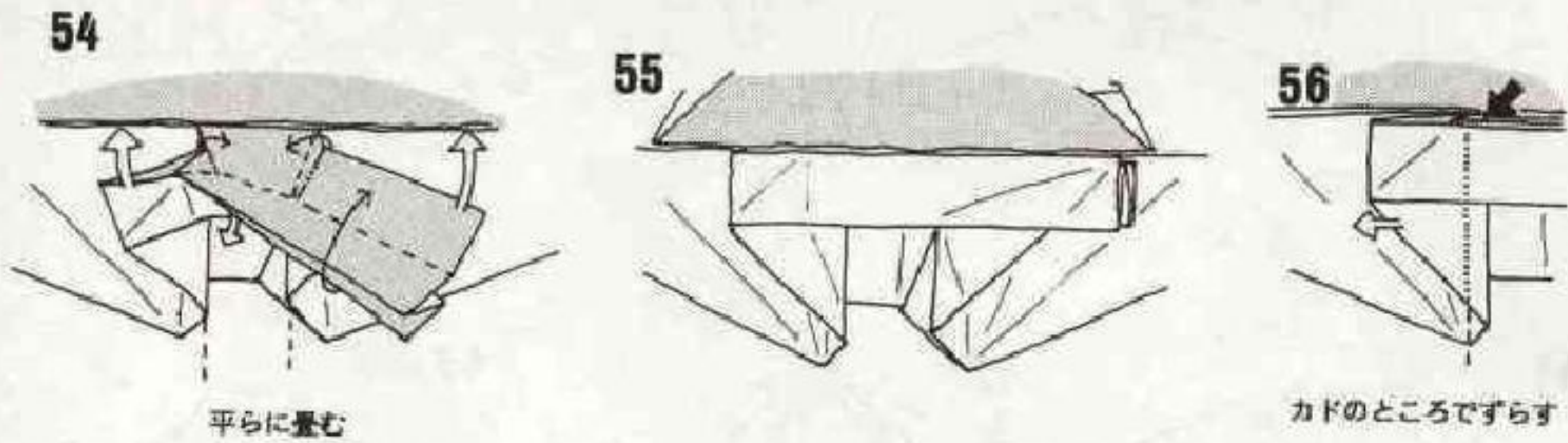
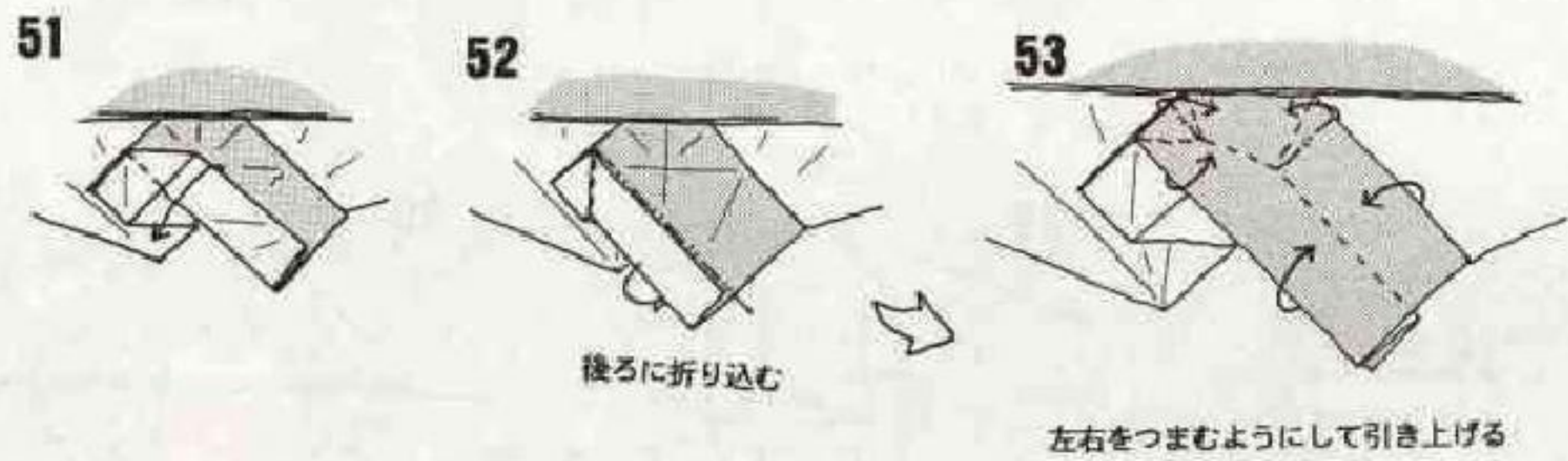
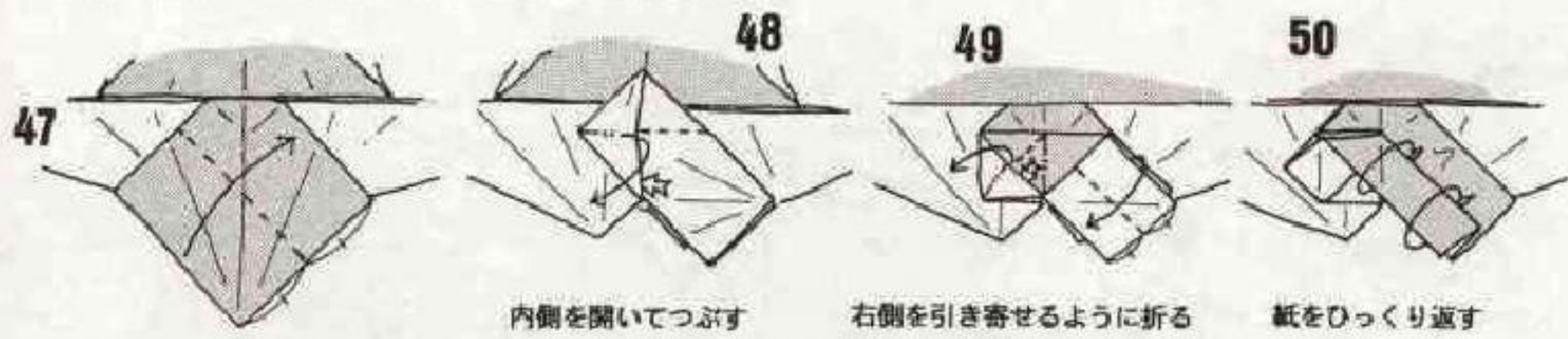
45



変形中割り折り

46

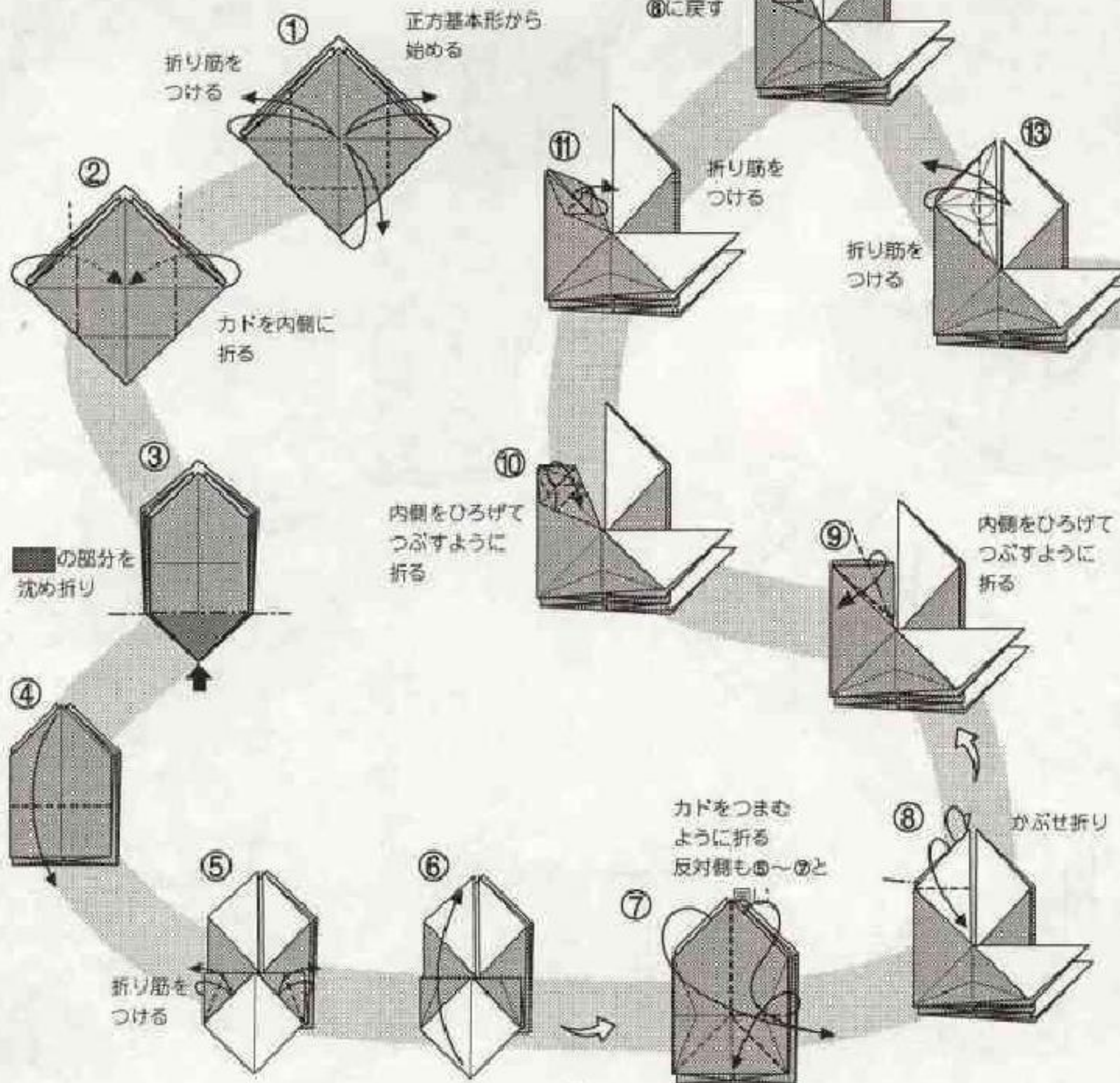
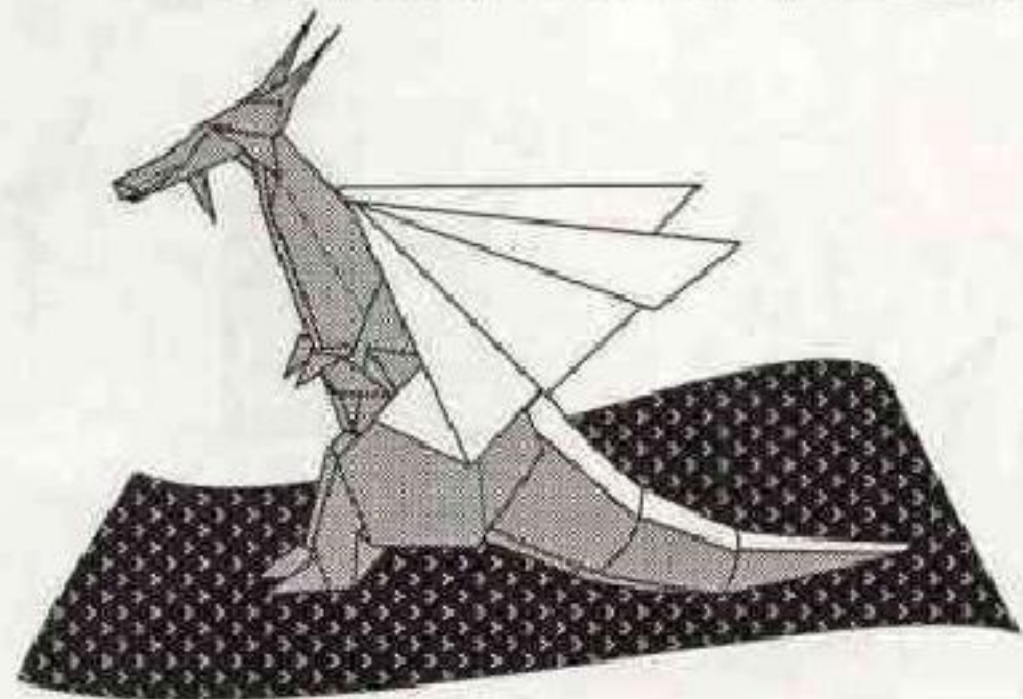


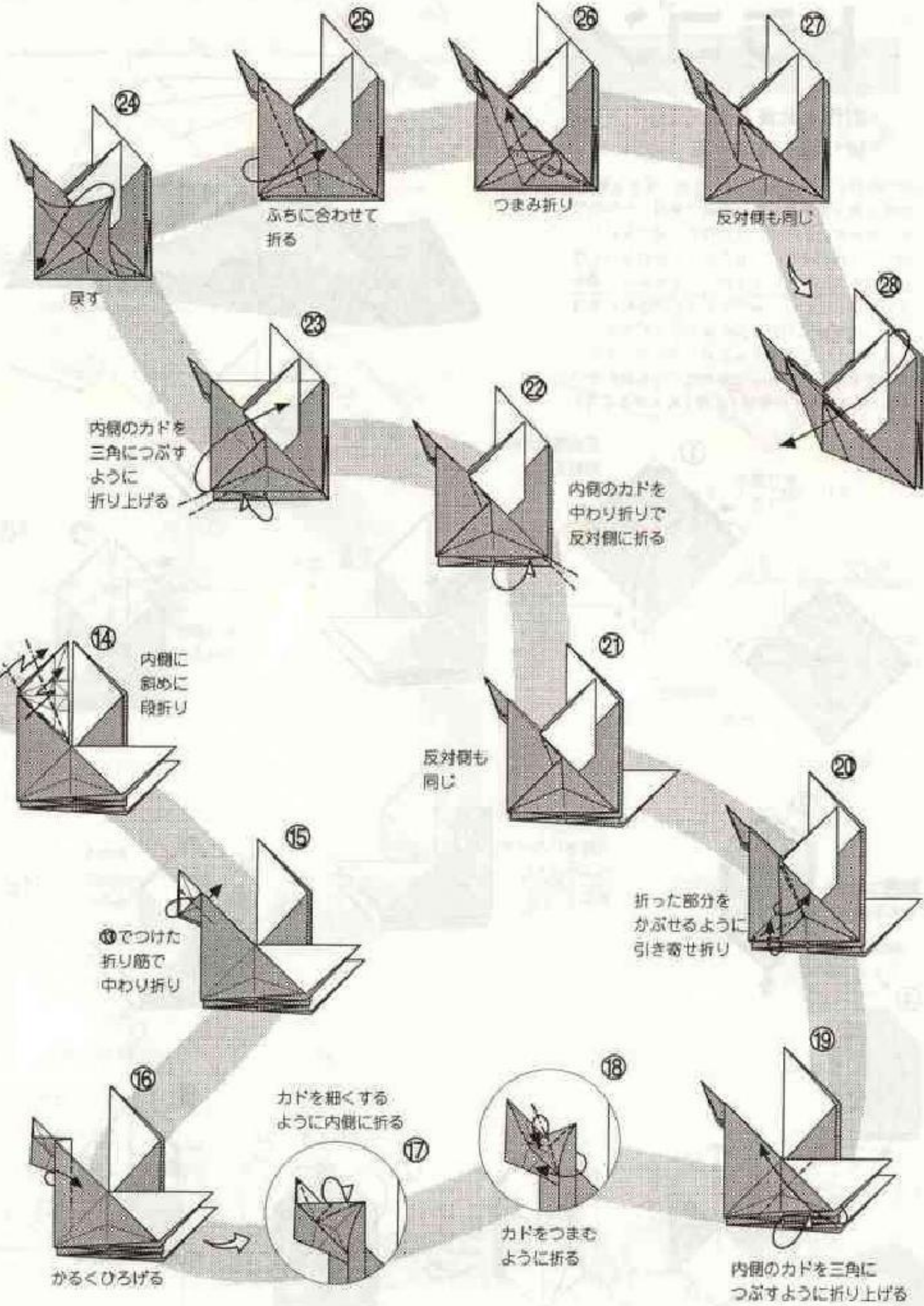


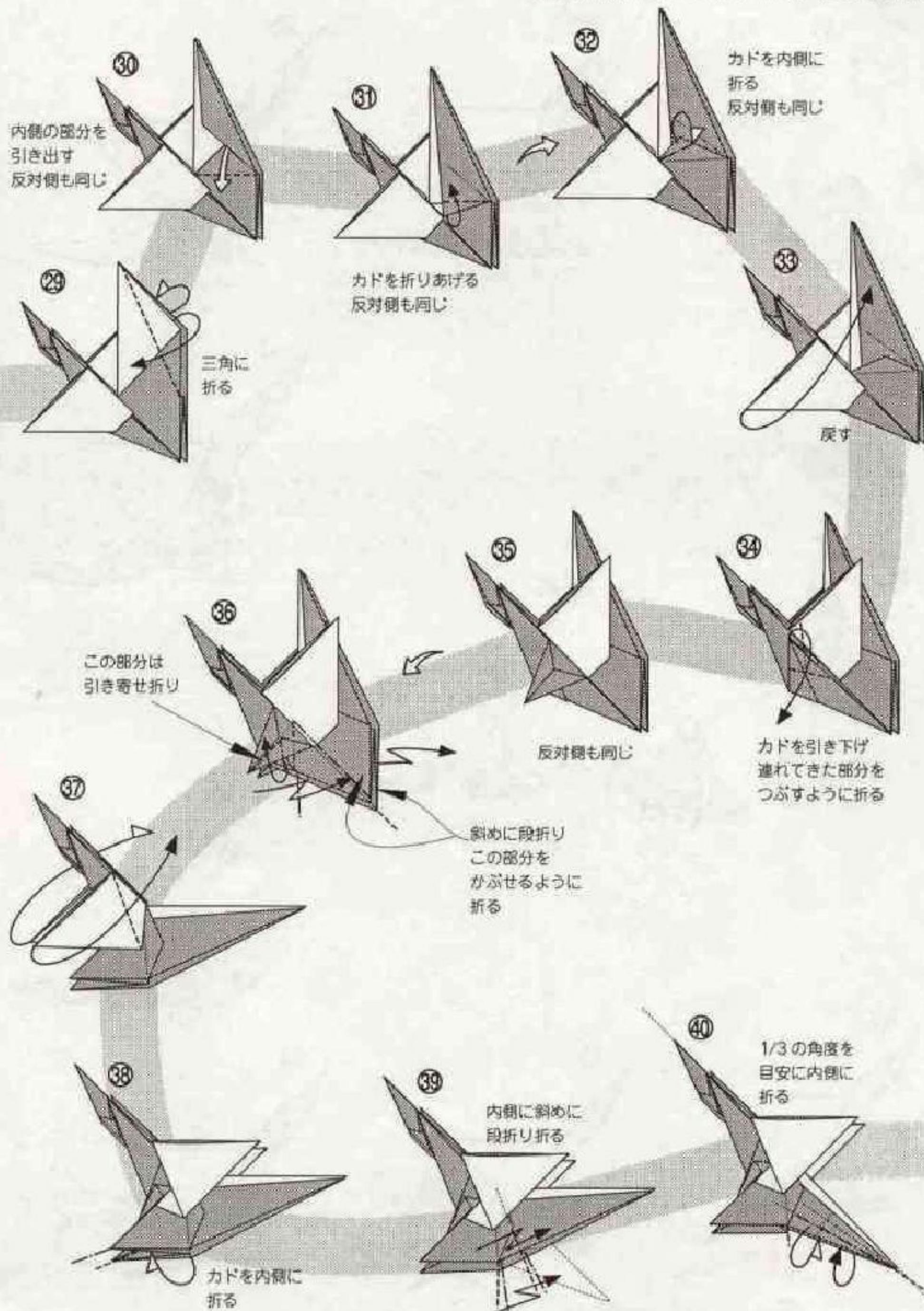
ドラゴン

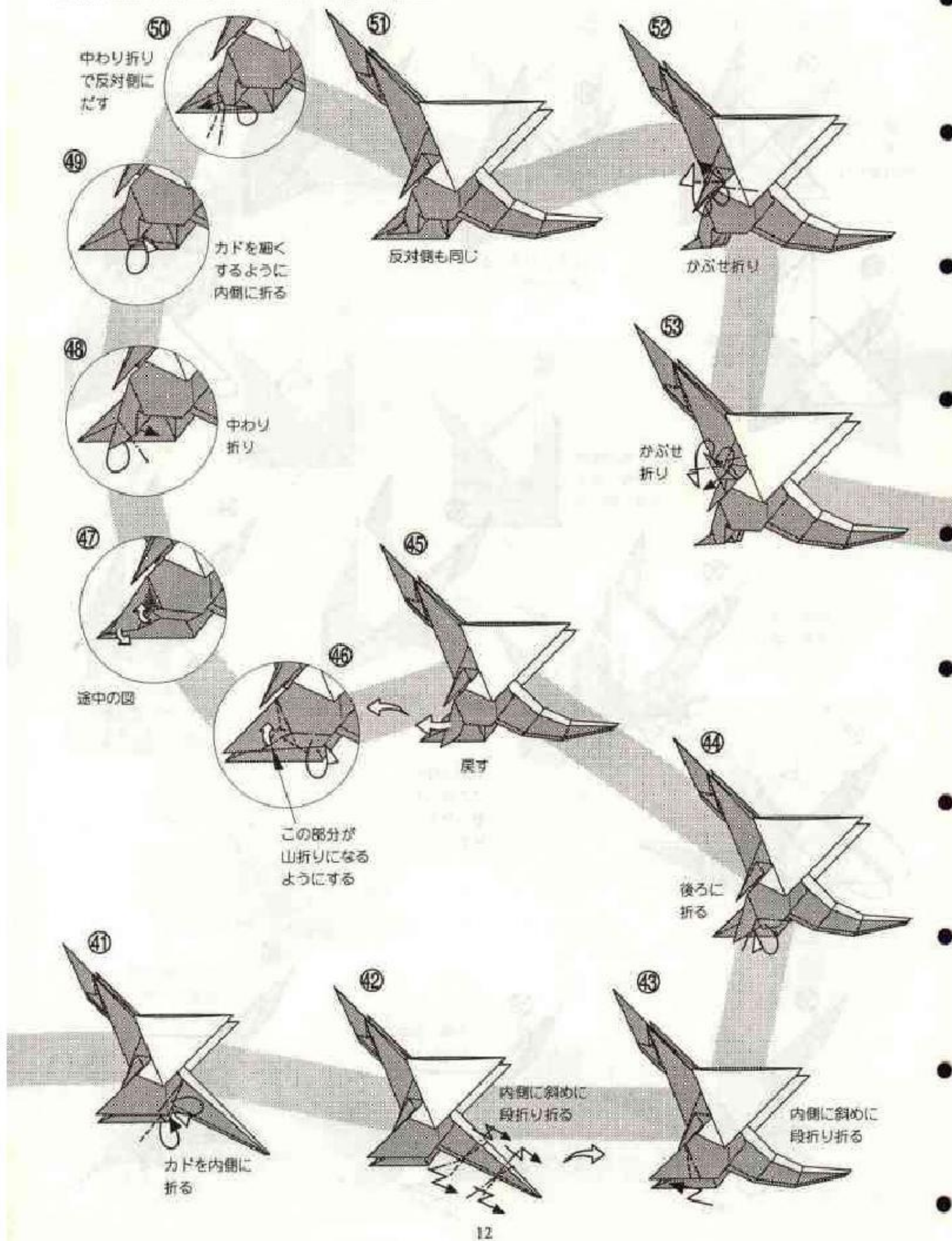
創作・北條高史
折り図・山口 真

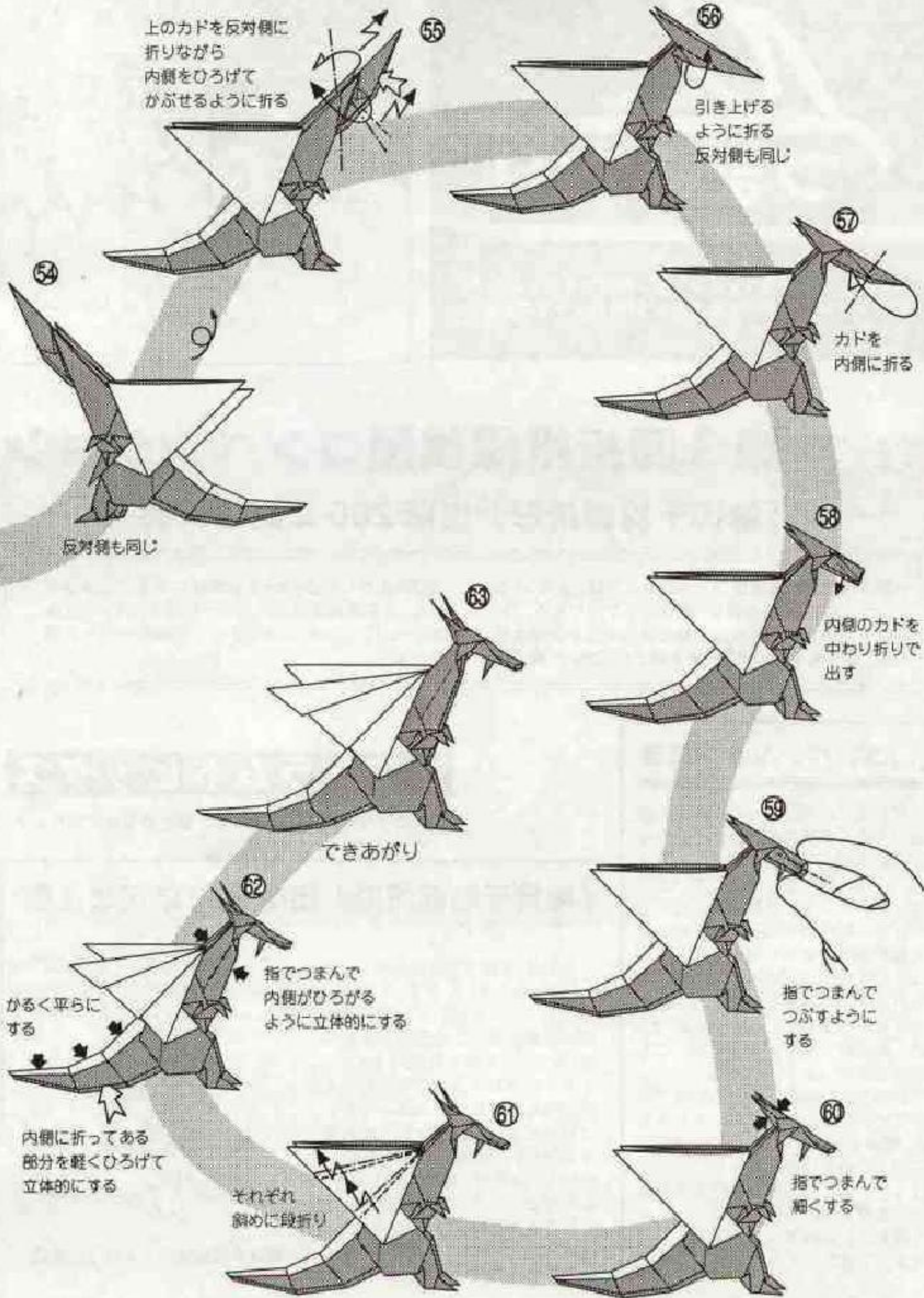
昨年9月に放映された「TVチャンピオン第2回折り紙王選手権」の決勝戦で使用した作品です。自分の作品の中では比較的「変でない」「むごくない」「折ってもそれほど疲れない」構造をしていると思いますので、どうかこわがらないでしをつけてみてください。諸般の事情から、山口さんが折り図を描いてくださることになりました。どうもありがとうございました。でも間違いがあったらただじゃおかないぞ。(相変わらずの強情(北條)め=やまぐち)











Rabbit Ear つまみおり

*いよいよ探偵団コンベンションが迫ってきました。開催月が今年は8月。今のところ14カ月に一度のお祭りということになります。

コマツビデオの 折ったもんがち!

□もうひとつのギネス挑戦□



詳細 第3回折紙探偵団コンベンション =「秘傳千羽鶴折形」出版200年記念大会=

第3回の折紙探偵団コンベンションは、8月23日(土)、24日(日)の両日、東洋大学で行われる。「秘傳千羽鶴折形」出版200年記念大会となる今大会は、東洋大学白山校舎(東京都文京区白山、都営三

田線白山から徒歩5分)をお借りすることが決定した。現在講師陣のエントリーが始まっている。今コンベンションのプログラム・企画の一端をご紹介します。

○コンベンション概要

折り紙の好きなひとなら誰でも参加できる「折紙探偵団コンベンション」は、今回も例年通り、2日間に渡ってたっぷり折り紙を楽しんでいただくという「大折り紙教室大会」です。様々な作品や研究を原作者や研究家が講師となって解説してもらえます。第3回である今大会は、東洋大学白山校舎の講義室をお借りすることになりました。このため講師の声も聞き取りやすくより充実したものになるでしょう。

各教室は、定員15〜20名程度で行います。1教室50分を単位としますが、難解なものなどは2単位を連続して約2時間かけて取り組むことになります。遠方の方のための宿泊施設の用意や好評の「コンベンション折り図集」もvol.3の出版を予定しています。ご期待ください。

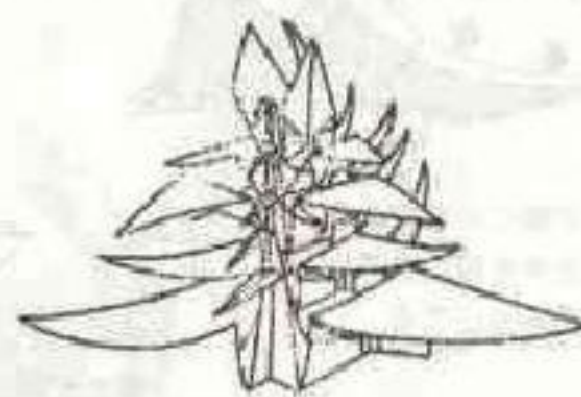
プログラムトピックス

プログラム内容は予定です。変更場合があります。

「秘傳千羽鶴折形」出版200年記念企画

今年は、「秘傳千羽鶴折形」出版200年の年に当たります。これを記念して、コンベンションでは、「秘傳千羽鶴折形」を徹底的に楽しんでいただく企画を用意しました。まず、折り紙の古典研究の第一人者、岡村昌夫氏に全体講演を行っていただきます。更に、折り紙教室では「秘傳千羽鶴折形」から厳選した作品(迦陵頻、稲妻、釣りふね、などなど)の折り方の解説が受けられます。講師は、岡村氏を始め、通称「岡村教室」のご婦人達。技術の進歩の著しい現在も、古典に学

ぶことは多いはず。この機会に是非、江戸期に開いた折り紙文化の奥の深さを体験してみてください。



「秘傳千羽鶴折形」より「迦陵頻」

折紙の幾何学・哲学

本紙の巻頭論文連載も好評な川崎敏和氏は、魅惑的な折り紙幾何学の世界を語ってくれそうです。曰く「東秀明氏の幾何学は負曲率曲面ワールドへの入り口だ。トキ・エンの帽子をうねらせ、アイロンがけが目黒ウニを生む。そんなパワーにあふれた世界をのぞいてみよう。」

折紙の哲学でお馴染みの羽鳥公士郎氏は次のような一言を。「単純な作品のウラには哲学がかくされているのです。本誌に連載中の『折り紙の哲学』とも関連して、折り紙の本質に迫る...かも。」どんな講義が展開されるやら。



チェシャ猫
(羽鳥作)

マニア必修 - ティーバッグのトナカイ



「ビバ！おりがみ」—今や、マニアの間でバイブルとしての不動の地位を築いて久しい。同書の収録作品中、異彩を放ち、作者のセンスを際立たせる。「ビバ！おりがみ」の作品中一番の名作はと問われ「ティーバッグのトナカイ」と答えるひねくれたマニアも存在するという。写真掲載のみの作品で、その折り方は謎に包まれていた。第3回折紙探偵団コンベンションでついに登場です。え！どこに写真があるかって、そんな質問くれぐれもマニアの前ではなさらないように。ご存じ、前川淳氏の、機知に富んだ折り工程図も楽しみだ。

「吉野一生基金」第一回招待者は リック・ビーチさん

今大会から「吉野一生基金」により海外からの折紙作家、研究家が招待される。第一回の招待者は、吉野一生氏とも交流の深かったイギリスのリック・ビーチ氏。ビーチ氏はイギリスでも最も活動的な折紙研究家のひとり。コンベンションでは1教室を受け持っていていただき、イギリス・ヨーロッパ折紙の最近を伝えていただこう。どんな話が聞けるか楽しみだ。



英語の得意な皆様へ

Invitation to ORIGAMI TANTEIDAN CONVENTION 97

We invite all origami-lovers to 3rd ORIGAMI TANTEIDAN CONVENTION, which is going to be held on August 23 and 24 at Toyo University, Tokyo.

We will have a lot of origami classes, from simple to hyper-com-

plex, and above all, Mr. Rick Beech, who are invited by Yoshino Issei Fund, will participate as an instructor. It is 200 years since "Sembazuru-Orikata (One Thousand Cranes Origami)" was published, and we will also have an event celebrating it.

探偵団らしさもいっぱい

新しく加わった講師陣、まずはここでこのマニア、小笹一氏。マニアならではの造形は一見の価値あり。腕に自信の諸氏「ガメラ」に挑戦を！宮城からは便器で名を馳せた高校生、木下剛君が「トリケラトプス」を連れてやってくる。

また、恐竜倶楽部の木村哲夫氏は「三葉虫」、宮島登氏が「マンモス」、木

村良寿氏は「スワニードラゴン」、北條高史氏が「ガイコツくん3号」、こだわり派筆頭の木下一郎氏は、思い入れたっぷりの「大将兜」の講習です。TBS「ザ・ベストテン」に作者自ら出演した代表作。楽しい講習になること請け合いです。と探偵団らしい作品もいっぱい。

参加者募集開始

この「第3回折紙探偵団コンベンション」への参加者を募集しています。折り紙が好きな方ならどなたでも大歓迎ですが、小学生以下のお子さまにはなるべくご父兄の方のご同伴をお願いします。

参加費は、23日・24日の2日間で4000円です。1日だけの参加でも割引はございませんのでご了承下さい。また、懇親会への参加ご希望の場合、別途5000円が必要です。また、「コンベンション折り図集vol.3」は1000円で販売の予定です。

参加ご希望の方は

〒113 東京都文京区白山1-33-8-216
ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6080

まで参加の旨をお知らせ下さい。参加費等は当日、会場でお支払いいただきます。定員を150名としており、集まり次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込み下さい。

宿泊について

遠方からお越しの方や、エントレスの折り紙談義を楽しみにされている方々のために23日の夜の宿泊施設を用意します。ご希望の方は、参加申し込みと共に事務局へご確認下さい。

おりすじ

創作の進行形

小松英夫

創作を始めたばかりの頃は、何よりも形が出来ることが楽しかった。けれど探偵団に入ったことで、幸運にも「をる」に作品や折り図が掲載されると、折り紙の創作ということについて色々考えるようになった。そして今のところ僕は、自分が作るような造形的な折り紙を「プラモデル」に近いものとして考えている。折って楽しく、眺めてカッコよく(かわいく)、そして飾って引き立つ、といったものだ。この高い理想を何とかして作品内に取り入れたいと思う。さらに、「意外性」といったものを加えたい。でも今までに作った、ただでさえ少ない作品の中では、満足できるものはなかなか無い……。

ところで自分の作品を振り返ってみると、不思議なことになんだか「これ本当に僕が作ったのか」という気がする。けれども考えてみるとこれはその通りで、僕にとって創作という行為は紙と一緒にするものだからだ。紙はアイデアを形にしてくれたり、出してくれたりする。こんな紙との対話のような過程が楽しくて創作をしているのかもしれない。(この気

持ち、わかる人いますよね?)

これからやはり、動物を折っていきなり。折ってみたいものはたくさんある。問題はどうか折るか、だ。

さて今号より折り図連載となった「トラ」ですが、これは「をる」に載った、はっきり言えば未完成だったものを大幅に改作したものです。原形が出来てから完成まで2年半かかった労作です。しかし、インサイド・アウトの技法は川畑さん、モンローさんが本家ですし、顔は西川さんの「トラ」の影響をしっかりと受けてます。でも縞模様を折り出す向きを描いて出した毛並みの表現や、目の折り出しなど、僕なりに磨いたつもりです。工程が長いので、取っ掛かりにくいと思いますが、ちょうど来年の干支でもあるので折って、飾っていただけたらうれしいです。それと、後半に出てくる顔の折りが細かいので必ず一変30cm以上の紙を使ってください。折り紙用紙の場合24cmでも辛いと思うので、おりがみほうすで35cmの折り紙用紙を手に入れてから折ってくださいね。

コンベンション宿泊

案内 Part.2

コンベンションは2日間にわたりますので、昨年同様旅館の大部屋を借り、朝まで折り紙を折ろうという、「折紙強化合宿」も現在企画中です。

残念ながら、昨年は飲み会がメインとなってしまい、朝まで折り紙を折ることのできた参加者はいなかったようですが、今年こそ頑張りたいと思っています。よしんばまた、飲み会中心となったとしても、それはそれで、普段は真面目な折り紙愛好家諸氏の意外におまめけだったりする姿をみるのでよしとしましょう。場所は未定ですが、1泊朝食付きで7000円程度となる予定です。遠くから参加される方も、お近くの方も気軽にお問い合わせください。コンベンション前後の宿泊の相談もどうぞ。

折紙探偵団定例会のお知らせ

6月、7月の例会は会場の都合により5時30分からとなります。夕涼みがてら気楽に参加してください。参加費、無料。会場・文京区民センター(都営地下鉄三田線・春日駅の真上)お問い合わせはおりがみほうすまで。

訂正とお詫び

前号の北條高史・作「リボンベルII」の折り図にレイアウト上の手違いが多々ありました件、ここに訂正しお詫び申し上げます。具体的には以下の通りです。

●図3と4のあいだ、図9と10のあいだに拡大記号が入っていますが、これは要りません。

●図50と51のあいだ、53と54のあいだにひっくり返し記号を補ってください。また、図54と55のあいだのひっくり返し記号は無視しましょう。(編集部)

迷探偵 オリン

作: 山崎真緒

プレスTEMに描うの巻



発行・折紙探偵団

〒113 東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリーおりがみほうす内

Phone (03) 5684-6080

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫